

「落花生」生育情報（第3報）

平成27年9月17日
千葉県農林水産部
生産振興課

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

1 生育状況

調査ほ場における9月1日現在の生育状況は、各品種とも、さや数、さや重が少なく、不稔が多くなっており、この結果、各品種の作柄は「不良」となっています。

これは、莢（さや）ができ始める時期から莢が大きくなる時期（結莢期～莢肥大期）に当たる7月下旬から8月上旬にかけて、降水量が極めて少ない干ばつ傾向であったことから、さや数が抑制されたことや、莢の中の落花生が大きくなる時期（子実肥大期）に当たる8月中旬から8月下旬にかけて気温が低くなったことで、登熟が抑制されたことが原因であると考えられます。

作況調査成績（9月1日調査）

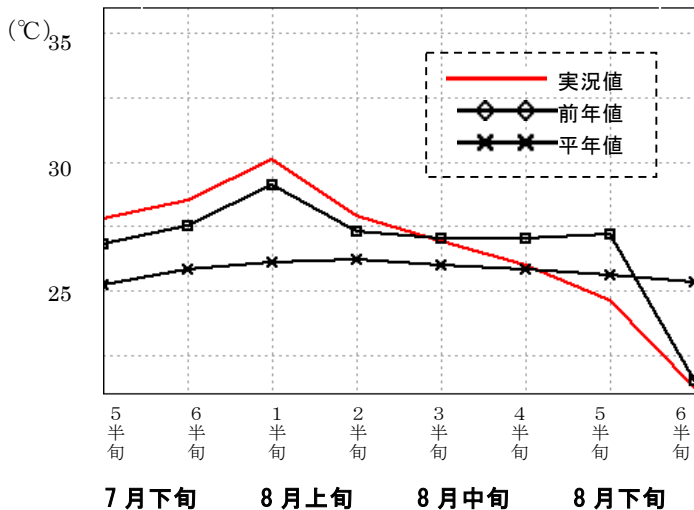
品種名	年次	開花期	さや実数 (個/株)	上さや数 (個/株)	下さや数 (個/株)	m ² 当たり 生さや 実重(g)	m ² 当たり 乾燥さや 実重(g)	上さや 不稔歩合 (%)	生育状況
千葉 半立	本年	7/9	38.7	16.9	21.8	687	146	5.0%	不良
	前年	7/3	47.8	24.0	23.8	885	231	9.3%	
	平年	7/6	45.4	21.8	23.6	839	209	3.1%	
	平年対比	3	85%	78%	92%	82%	70%	-	
ナカテ ユタカ	本年	7/1	36.8	15.7	21.1	739	198	8.2%	不良
	前年	6/30	54.5	30.7	23.8	1096	320	17.0%	
	平年	7/5	55.0	31.2	22.4	995	320	5.9%	
	平年対比	-4	67%	50%	94%	74%	62%	-	
おお まさり	本年	7/5	53.9	15.0	38.9	696	125	2.8%	不良
	前年	7/5	79.7	20.2	59.5	1017	204	4.0%	
	平年	7/6	86.1	23.1	63.0	1142	232	2.4%	
	対比	-1	63%	65%	62%	61%	54%	-	

*「千葉半立」、「ナカテユタカ」の平年値は平成20～26年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く平均

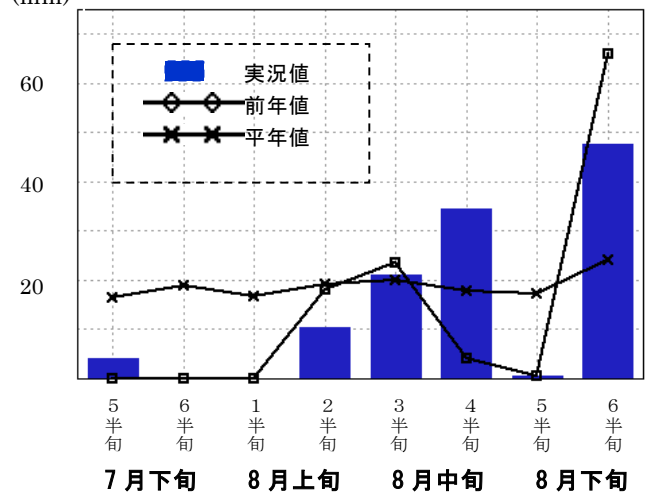
*「おおまさり」の平年値は平成22年～26年（過去5年）の調査データの平均

*対比は日数、又は平年比

佐倉市の平均気温（7月下旬から8月下旬）



佐倉市の積算降水量（7月下旬から8月下旬）



2 これからの管理のポイント

「試し掘り」を行って適期に収穫しよう！

収穫適期の目安は、「千葉半立」が開花期後95日、「ナカテユタカ」が開花期後80日です。**必ず試し掘りをして、適期収穫に努めましょう。**

「ナカテユタカ」は、収穫適期を迎えている地域があります。「ナカテユタカ」は「千葉半立」と異なり、葉が繁っているうちに収穫適期となり、**掘り遅れが食味を著しく低下させます。早めに試し掘りを行い、適期に収穫しましょう。**

落花生研究室（八街市・マルチ栽培）での収穫期の目安

品種名	千葉半立		ナカテユタカ		おおまさり (ゆで豆)
は種日	5月22日	6月15日	5月22日	6月15日	5月22日
開花期	6月29日	7月20日	6月28日	7月19日	6月28日
収穫目安	10月2日	10月23日	9月16日	10月7日	9月26日

*開花期は、ほ場全体の50%程度の株に1輪でも花が咲き始めた日

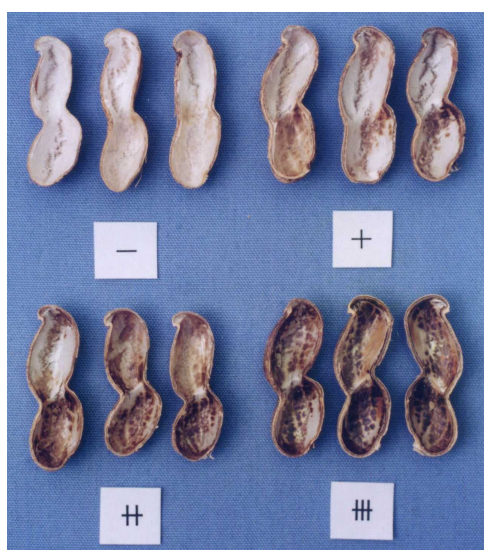
*収穫期目安は、「千葉半立」が開花期後95日、「おおまさり」が開花期後85日、「ナカテユタカ」が開花期後80日で算出。（日数は標準的な目安です。）

ナカテユタカの収穫適期判断法

「ナカテユタカ」は、さやの裏の色で収穫適期が判断できます。

<方法>

- ①ほ場の中で生育が中庸な4株を掘り、それぞれの株もとのさやを5つとり、さやの裏の色を見ます。
- ②合計20個のさやのうち、その半数以上の色が淡褐色(写真+)以上になり、黒褐色(写真+++)のさやがひとつでも見られたときが掘取りの適期です。
- ③開花期から予想される適期の7日前から、2, 3日おきに試し掘りをして判定します。



丁寧な乾燥をして、おいしい落花生に仕上げよう！

おいしい落花生を生産するための乾燥のポイントは、湿気を防ぎ、なるべく風通し良く管理することです。

掘り取った落花生は、5～7日間の地干しの後、風通しの良い場所を選んで野積み(ポッチ積み)を行います。

特に9月から収穫期となる「ナカテユタカ」では、茎葉が多く蒸れやすく、注意が必要です。風通しが良い場所に小さく野積みし、ブルーシートや稲わら等で覆い、十分に雨を防ぎましょう。透明ビニールシートは湿気がこもりやすく、カビの発生の要因となるので、使用しないでください。

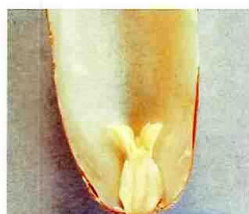
来年の栽培に向けて、優良種子を確保しよう！

落花生の栽培の基本は、優良種子を確保し、発芽を揃えることです。本年は8月上旬が干ばつ傾向であったため、幼芽褐変^{*}の発生が多いと予想されます。

このため、来年の落花生栽培用の種子の発芽不良が懸念されます。

来年の落花生栽培のため、自家採種する種子を多めに確保し、幼芽褐変がないか、確認しておきましょう。

自家採種では、異型株・異型莢を除去するとともに、十分な乾燥により、カビを防ぎ、優良種子の確保に努めましょう。



健全種子



程度A
本葉が褐変



程度B
胚軸上部が褐変



程度C
本葉全部と胚軸
上部が褐変

※ 幼芽褐変

症状は程度Aが症状は軽く、Bが中程度、Cは重症となり、出芽率が低下する

程度A (出芽率9割) 程度B (出芽率6割)

程度C (出芽率1割)

「落花生栽培管理簿」を確認してください

落花生の収穫期となりましたが、「栽培管理記録簿」は整っていますか？

「栽培管理記録簿」は、生産者自身が栽培管理や使用した肥料や農薬散布の状況を記録し、それらを集荷業者や量販店を通じて開示することで、千葉ブランド落花生の「安全・安心」を消費者へアピールすることが目的です。

出荷時に集荷業者に速やかに提出できるよう、もう一度内容を確認し、自分の保存用に控えを用意しておきましょう。